

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

医学史 No.6

公衆衛生の誕生 —— スノウのコレラ地図から現代の感染症対策まで

★ 清光学院の講師は、公衆衛生学・疫学を専門とする大学教員です。スノウの疫学調査から現代のCOVID-19対策まで、公衆衛生の歴史的発展を研究者として深く知っており、その経験がこの講座の根拠になっています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 公衆衛生・感染症対策を問う小論文

「感染症対策において何が重要か」という小論文で、スノウのコレラ地図は疫学的思考の原点として最良の事例になる。公衆衛生の歴史を知っている受験生は、現代の感染症対策を歴史的な文脈で論じられる。

② 疫学・統計的思考を問う問題

「疫学調査はなぜ重要か」という問いは、医学部・公衆衛生系の定番である。スノウのコレラ調査という具体的な事例を持つ受験生は、疫学的思考を実例で語る。

③ 「パンデミック対策」型の面接

「COVID-19のような感染症流行にどう対応するか」という面接質問に、公衆衛生の歴史から答えられる受験生は、試験官に深い視点があると判断される。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
医学部全般（小論文）	感染症対策・公衆衛生を論じる問題	スノウの歴史が疫学的思考の論拠になる
医学部推薦・総合型選抜（面接）	「感染症・パンデミック対策」型の問い	公衆衛生史の知識が具体的な論述を可能にする
公衆衛生・保健学部（全般）	疫学・統計的思考を問う問題	スノウの事例が疫学的思考の原型を示す
地域枠・総合診療系	地域の感染症対策・予防医学	公衆衛生の歴史が地域医療の基盤を示す

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

「感染症対策には隔離と手洗いが大切です」だけでは採点者に疫学的思考がないと映る。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）スノウのコレラ地図を疫学的思考の原点として語る、（2）公衆衛生の歴史的発展を一本の物語として論じられる、（3）面接でパンデミック対策を疫学・政策の両面から語る、という変化が起きる。

清光学院の講師陣は、関連する入試問題で「表層的な答案」と「深い理解を示す答案」の評価の差がいかに大きいかを採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。